

3 図書館協議会による図書館運営全体に対する評価（委員長とりまとめ）

基礎的サービス評価の数値については、開館日数が例年よりも10日間少ないことの影響を加味した評価が必要であり、その意味で「1日平均」では、入館者数や個人貸出冊数が昨年度よりも増加していることを評価すべきである。次年度も、大規模な修繕工事のための臨時休館が予定されていることから、「1日平均」の評価指標を設定する必要がある。併せて、次年度の休館日に関しても、利用者への周知を図り理解を得るとともに、可能な限りの利便性を確保する対応が求められる。

新規登録者数に関しては、減少傾向にある原因の解明が求められる一方で、人口減少や高齢化等の社会状況を踏まえ、どのような指標が適当であるかを検討することも必要であると考えられる。協議会委員からは「登録者を確保し続けているという観点からの指標の設定も考えられるのではないか」という意見が出されている。

一方で、リピーターの利用が多い状況については、県民の図書館に対する関心を高め、新規登録者を増やすための方策を検討し実施する必要がある。多くの協議会委員が、図書館の広報活動の必要性を指摘している。また、その具体的な取り組みとして、幼稚園や学校・大学、隣接する自然科学館などと連携したチラシの配布や、新聞記事等のメディアの活用、あるいは、対象者を絞った取り組みをしてはどうか、立地を活かして鳥屋野湯の様子やフクロウの様子などをSNSで紹介してはどうか、などの提案が出されている。

図書館システムが更新されたことにより、多くの側面で利用者の利便性が高くなったことを評価する。協議会委員からは「拡充されたサービス機能を、各種の手段を用いて利用者に周知することを通して、さらなる利用者の拡充、利用頻度の向上につなげていただきたい」という意見が出された。また、無線LANの高速化とフィルタリングの緩和についての要望も出されている。

高齢者・障害者に対するサービスについて、今後は、リーディングトラッカーの提供や、音声読書機、音声読み上げパソコン等の設置、対面朗読のPRなどのサービスの充実や、ボランティア体制の整備等を図っていくとのことであり、様々な取り組みを期待している。協議会委員からは、視覚障害者の方々のイベントへの参加や図書館利用について、「盲導犬、介助犬、聴導犬といった、身体障害者補助犬の受け入れ態勢の整備（対応マニュアルの作成など）」及び「一般のイベント参加者や図書館利用者に対する周知と理解の醸成」に取り組むことを希望する意見が出されており、対応が望まれる。

最後に、充実した図書館サービスの提供には、予算と職員体制の充実が必要不可欠であることは強く指摘しておく。